

OGAWA Nozomu
コーディネーター
小川 希
TERATOTERAディレクター
Art Center Ongoing 代表



2002年から2006年に亘り、東京や横浜の各所を舞台に若手アーティストを対象とした大規模な公募展覧会「Ongoing」を、年一回のペースで企画、開催。その独自の公募・互選システムにより形成した数百名にのぼる若手アーティストネットワークを基盤に、既存の価値にとらわれない文化の新しい試みを恒常的に実践し発信する場を目指して、2008年1月に東京・吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立。現在、同施設の代表を務める。http://www.ongoing.jp
また、JR中央線高円寺から国分寺を舞台としたアートプロジェクト TERATOTERA (テラトテラ) のディレクターとしても活躍する。http://teratotera.jp
最近では2016年1月から4月までの3ヶ月、国際交流基金アジアフェロシップとして、東南アジア9カ国に点在する83カ所のアートをスペースをリサーチした。

ICHIMURA Misako
いちむらみさこ
アーティスト



2003年から東京の公園のブルーテント村に住み始め、同じテント村住人の小川でつオと一緒には物々交換カフェ・エノアルと絵を描く会を開いている。2007年にホームレスの女性たちのグループ「ノラ」を立ちあげる。国内外で、資本主義の問題や反ジェントリフィケーション、フェミニズムなどに関連する発表を行っている。現在、反オリンピックの活動を展開中。著書に「Dear キクチさん、ブルーテント村とチョコレート」(キョート出版、2006年)。

KOIZUMI Meiro
小泉明郎
アーティスト



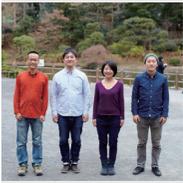
1976年生まれ。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン(ロンドン)にてアートを学ぶ。国内外で映像やパフォーマンスによる作品を発表している。主な個展に「帝国は今日も歌う」デ・ハーレン・ハーレム美術館(オランダ2016年)「捕われた声は静寂の夢を見る」アーツ前橋(2015年)、「Project Series 99: Meiro Koizumi」ニューヨーク近代美術館(2013年)、「MAM Project 009 : 小泉明郎」森美術館(東京2009年)など。その他、モントリオール・ビエンナーレ(2016年)、「第一回あいちトリエンナーレ」(2010年)などに参加。

YAMAMOTO Atsushi
山本 篤
アーティスト



1980年 東京生まれ。2003年 多摩美術大学 絵画学科油画専攻卒業。映像・パフォーマンスを中心に制作/発表している。東京都在住。個展:「2016」(アートセンター Ongoing, 2016年)、「ROAD MOVIES」(アートセンター Ongoing, 2016年) グループ展:「国立奥多摩映画館」(国立奥多摩美術館、2016年)「テラトテラ祭り-SPROUT-」(三鷹市内、2015年)

Pepin Structural Designs
ペピン結構設計
演劇集団



1999年結成。STスポットやBankARTなど横浜を拠点に活動の後、一貫して「場所」から立ち上がる作品づくりにこだわる。商店街の空きテナント・通りを使った移動型演劇『対岸の火事』(2012年/北九州)、『ファンタスティック・アーケード・プロジェクト』(2014年/北九州)、演劇まちあるき『パラダイス仏生山』(2014~16年/高松)、『ギブ・ミー・チョコレート!』(2017年/横浜)など、演劇からアートプロジェクトまで横断的に手がける。http://pepin.jp

FUKUZUMI Ren
福住 廉
美術評論家



1975年生まれ。著書に『今日の限界芸術』、共著に『日本美術全集第19巻: 拡張する戦後美術』ほか多数。「artscape」「共同通信」で連載しているほか、「今日の限界芸術百選」(まつだい・鹿舞台、2015)など展覧会の企画も手がける。現在、東京藝術大学、女子美術大学、多摩美術大学非常勤講師。

MINATO Chihiro
港 千尋
NPO法人 Art Bridge Institute 代表理事



1960年生まれ。写真家・著述家。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学)。早稲田大学政治経済学部卒業。2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶-創造と想起の力』(講談社/1996)でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。あいちトリエンナーレ 2016 芸術監督。新刊に『言葉の宇宙船-わたしたちの本のつくり方』芹沢高志+港千尋 (ABI+P3 共同出版プロジェクト)。

KUBOTA Kenji
窪田研二
インディペンデント・キュレーター



上野の森美術館、水戸芸術館現代美術センター学芸員を経て2006年よりインディペンデント・キュレーターとして活動。2008年よりKENJI KUBOTA ART OFFICE 代表。政治、経済といった社会システムにおいてアートが機能しうる可能性をアーティストや大学、企業などと協働し、様々な文化的フォーマットを用いて試みている。「X-color グラフィティ in Japan」(水戸芸術館現代美術センター、2005年)、「マネートーク」(広島市現代美術館、2007-2008年)、「六本木クロッシング 2010-芸術は可能か?」(森美術館、2010年)、「Don't Follow the Wind」(福島の帰還困難区域内某所、2015年-)他、国内外の展覧会キュレーションを多数手がける。

Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya]

名古屋の港まちをフィールドにしたアートプログラム。名古屋港エリアでまちづくりを推進する「港まちづくり協議会」が母体となり『Minatomachi POTLUCK BUILDING』を拠点に、現代美術の展示やスクールプログラム、空き家活用など様々なプロジェクトを展開している。http://www.mat-nagoya.jp

AOTA Shinya
青田真也
美術家 / MAT, Nagoya プログラムディレクター



1982年大阪府生まれ。名古屋市在住。2006年京都精華大学芸術学部造形学科版画専攻卒業。2008年愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。主な個展に「個展」(青山 | 目黒、東京、2010年)、「Shinya Aota 2014」(青山 | 目黒、東京、2014年)、主なグループ展に「あいちトリエンナーレ2010」(長者町会場、愛知、2010年)、「日常/オフレコ」(神奈川芸術劇場、2014年)、「MOTアニュアル2014」(東京都現代美術館)などがある。http://www.shinyaaota.com/

NODA Tomoko
野田智子
アートマネージャー / MAT, Nagoya プログラムディレクター



1983年岐阜県生まれ。成安造形大学芸術学部芸術学科卒業、静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科修了。無人島プロダクション、NANJO and ASSOCIATESにて、アーティストのマネジメント、作品販売、国際美術展の広報業務などに携わる。2014年より個人事務所「一本木プロダクション」を設立し、ジャンルや環境にとらわれず表現者の作品マネジメントを行う。アーティストユニット「Nadegata Instant Party」メンバー。http://ichipro.jp

YOSHIDA Yuri
吉田有里
アートコーディネーター / MAT, Nagoya プログラムディレクター



1982年東京都生まれ。名古屋市在住。多摩美術大学大学院美術研究科芸術学専攻修了。2004年~2006年芦立さやかとともに「YOSHIDATE HOUSE」(横浜)を運営。2004年~2009年BankART1929勤務。2009年~2013年あいちトリエンナーレのアシスタントキュレーターとして、まちなか展示の会場である長者町エリアを担当。現在は、港まちづくり協議会事務局、名古屋の港まちをフィールドにしたアートプログラムMinatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya] の共同ディレクターをつとめる。http://www.mat-nagoya.jp

SOMA Chiaki
相馬千秋
芸術公社 代表理事



アートプロデューサー。横浜の舞台芸術創造拠点「急な坂スタジオ」初代ディレクター(2006-10年)、国際舞台芸術祭「フェスティバル/トーキョー」初代プログラム・ディレクター (F/T09春~F/T13)を経て、2014年NPO法人芸術公社を設立、代表理事として国内外で舞台芸術に関するプロデュースやキュレーションを行っている。2015年フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ受章。2016年より立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教授。

TERATOTERA (テラトテラ) とは?

TERATOTERA (テラトテラ) は、東京都とアーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人Ongoingが協働して、JR中央線高円寺駅~国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。

申込先・問い合わせ先 | TERATOTERA 事務局
〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-8-7 Art Center Ongoing内
Tel=090-4737-4798 E-Mail=info@teratotera.jp
Web=http://teratotera.jp Twitter=https://twitter.com/teratotera
Facebook=https://www.facebook.com/teratotera

主催: 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、一般社団法人Ongoing

アートプロジェクトのノウハウを本気で学べる連続講座

アートプロジェクトの0123 Introduction to Art Project

受講生募集

2017年 **6**月 [平成29年] — 2018年 **2**月 [平成30年]
隔週木曜日 | 19:30-21:30 | 全17回

会場 | アーツカウンシル東京 ROOM302

受講費 | 30,000円 (学生15,000円)

定員 | 20名

応募締切 2017年 **6**月11日 [日] [平成29年]

今、本当に必要なアートプロジェクトとはなにか?

アートプロジェクトのノウハウを本気で学べる連続講座

アートプロジェクトの0123

Introduction to Art Project

最近アートプロジェクトという言葉をよく耳にしませんか？
ここ数年、日本全国で大小様々なアートプロジェクトが開催され、そのどれかに実際に参加したことがある人も少なくないかもしれません。ではそもそもアートプロジェクトってなんのためにあるのでしょうか？それは私たちの生活に本当に必要なものなのでしょうか？アートをプロジェクトするって一体？

本講座はアートプロジェクトがもつ可能性や意義を今一度問い直し、そこから自分達に本当に必要なアートプロジェクトをつくりあげるための知識や技術を獲得することを目的とした全17回の連続講座です。

アートの歴史や現状を学ぶレクチャーから、第一線で活躍するアーティストやディレクターの話、また文章を書くためのノウハウまで、受講者が中心となり様々なディスカッションや実践を重ねながら、ゼミ形式でのレクチャーを進めていきます。

私たちが本当に必要とするアートプロジェクトを追い求め、それを実現させる担い手としての第一歩を踏み出したあなたのご応募をお待ちしています。

今、本当に必要なアートプロジェクトとはなにか？

A | アートの歴史・アートの概念を学ぶ、アーティストを知る

現代の美術の潮流をジャンルにわけ、毎回ごとに具体例をもとに学習していきます。加えて発展目覚しい東南アジアのアートシーンについても言及します。また現在進行形で活躍するアーティストやディレクターを各回でゲストに招いて、彼らの作品や活動について直接話を聞いていきます。

B | 文章力やデザイン力を身につける

アートを語ること、綴ること、デザインすることを実践方式で学んでいきます。実際に展覧会に足を運び、展示や作品の批評にチャレンジします。また、ゲスト講師に個々の文章の評価およびレクチャーをしてもらいます。

C | アートプロジェクトを体感する

現在アートプロジェクトを行うディレクターやキュレーターを招き、現場のリアルな状況のお話や、将来アートプロジェクトに携わりたい受講生に向けてアドバイスなどをいただきます。

D | 隣人と議論する

本講座はゼミ形式で行われ、毎回何らかのテーマに沿って、共に受講する参加者とディスカッションを重ねていきます。議論を重ねる中から、最終的には各受講者が自分自身の思い描くアートプロジェクトのイメージを形成することを目指します。

開催概要

日時

基本的に隔週木曜日（6月―2月）
19:30-21:30 | 全17回
6月22日、7月6日、7月20日、8月3日、
8月24日、9月7日、9月21日、10月5日、
10月19日、11月2日、11月16日、
11月もしくは12月で日程調整中、12月14日、
1月11日、1月26日（金）、2月8日、2月22日

会場

アーツカウンシル東京 ROOM302
[東京都千代田区外神田6-11-14
3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302]

受講費

30,000円（学生15,000円）

定員

20名

募集要項

応募締切

6月11日（日）締切

応募方法

件名を「アートプロジェクトの0123申込」とし、以下をご記入の上、
info@teratotera.jpまでメールにてお申込みください。

- お名前（フリガナ）
- 郵便番号
- 住所
- 電話番号
- メールアドレス
- 一般or学生
- 所属
- 応募課題（A・B各300字程度）

A あなたにとってのアートとはなんですか？
自分自身の体験をふまえて綴ってください。

B 講座に参加しようと思った理由と、受講後の抱負。

お預かりした個人情報は、主催者からの連絡のみに使用し、厳重に管理します。

主催

東京都
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
一般社団法人Ongoing

第1回 | 6月22日（木）
イントロダクション

A | 第2回 | 7月6日（木）
コンセプチュアルアート1
マルセル・デュシャンを祖とするコンセプチュアルアートの歴史は、現代美術の歴史そのものといっても過言ではありません。まずはその基本をおさえることから始めましょう。

A | 第3回 | 7月20日（木）
コンセプチュアルアート2
ゲスト講師：いちむらみさこ（アーティスト）
ブルーシート村や段ボールハウスに寝泊まりし、生活の中で対面した問題やフェミニズムにフォーカスを当てた作品／場を創り出す、現役ホームレスアーティストのいちむらみさこさんをゲストに迎えます。

A | 第4回 | 8月3日（木）
映像表現1
現代の美術シーンにおいて、映像表現の多様さを見逃すことはできません。映像表現がこれまで何を問題とし、どんな実験を重ねてきたのかを詳察します。

A | 第5回 | 8月24日（木）
映像表現2
ゲスト講師：小泉明郎（アーティスト）
独自の語り様式を用いて、演劇的とも評される映像作家の小泉明郎さんをゲストに招き、内奥の感情や記憶をテーマとした映像作品の紹介や、映像というメディアを通してどのように人間の心理を探求するかお話を伺います。

A | 第6回 | 9月7日（木）
インスタレーション1
ゲスト講師：山本篤（アーティスト）
映像を中心にパフォーマンスやインスタレーションを展開する山本篤さんをお招きして、過去作品を見つづ、インスタレーションの面白さや可能性についてお話を伺います。

A | 第7回 | 9月21日（木）
インスタレーション2
現代のアートプロジェクトで多く登場するインスタレーション。歴史的にどのような試みが行われたのか、実際に作品を見ながら学んでいきます。

A | 第8回 | 10月5日（木）
演劇
ゲスト講師：ペビン結構設計（演劇集団）
横浜を拠点に色々な地域に出向き作品をつくる演劇集団のペビン結構設計をお招きして、家／まち／自然の中など、さまざまな場所で「そこを劇場にする」プロジェクトのお話を伺います。

B | 第9回 | 10月19日（木）
作品評論の作法、展覧会で作品の評論を行う1
ゲスト講師：福住廉（美術評論家）
美術批評家の福住廉さんをゲストに迎え、展覧会、作品についての基本的な文章の書き方や、読む人への伝え方をレクチャーしてもらいます。次の第10回までに、各自で開催中の展覧会を鑑賞し、感想文を提出します。

B | 第10回 | 11月2日（木）
作品評論の作法、展覧会で作品の評論を行う2
ゲスト講師：福住廉（美術評論家）
展覧会の感想文を事前に提出し、講師の添削を受けます。添削を受けた文章を例に、良い点や改善点を話し合います。また、添削を受け、次回の授業までに各自リライトし、提出します。

B | 第11回 | 11月16日（木）
作品評論の作法、展覧会で作品の評論を行う3
ゲスト講師：福住廉（美術評論家）
講師に最終確認してもらった文章を受け取ります。最終版を受講生同士で読み合い、お互いの文章を俯瞰して見る練習をします。

C | 第12回 | 11月もしくは12月で日程調整中
アーティスティックディレクターの活動を知る
ゲスト講師：港千尋（NPO法人Art Bridge Institute代表理事）
「群衆」「移動」などをテーマに写真を撮りながら多彩な評論を行うほか、各地で取り組まれているアートプロジェクトや、他分野とアートの連携活動を取り上げた機関誌「ART BRIDGE」の発行のディレクションを行う港千尋さんをお招きしてお話を伺います。

C | 第13回 | 12月14日（木）
キュレーターの活動を知る
ゲスト講師：窪田研二（インディペンデント・キュレーター）
数々の展覧会や芸術祭にキュレーターとして関わり、多様なアプローチからアートや表現を社会に結びつける活動を行っている窪田研二さんをお招きしてお話を伺います。

C | 第14回 | 1月11日（木）
コーディネーターの活動を知る
ゲスト講師：Minatomachi Art Table [MAT, Nagoya]
青田真也、野田智子、吉田有里
名古屋の港まちをフィールドにした新しいアートプログラム「Minatomachi Art Table, Nagoya (MAT, Nagoya)」を実施している三名をお招きして、現場のお話を伺います。

C | 第15回 | 1月26日（金）
アートディレクターの活動を知る
ゲスト講師：相馬千秋（芸術公社 代表理事）
国内外で多数の演劇関連のプロジェクトのプロデュースやキュレーションを行うほか、アジア各地で審査員、理事、講師等を多数務める相馬千秋さんをお招きして、お話を伺います。

D | 第16回 | 2月8日（木）
受講生によるアートプロジェクトの企画発表

D | 第17回 | 2月22日（木）
受講生によるアートプロジェクトの企画発表